

いの流水俳壇

「当季雑詠」

特選

水張りの田より聞えし昼河鹿

刈谷 志津選

川村 博子
 (評)「河鹿」とは、山の湖や溪流などに住む小さくて瘦せた蛙で雌の方が大きい。雄は石の上などで清涼な美しい声で鳴く。近年は田植え期も早まり、山里でも五月ともなると田植えが始まる。「水張りの田」は、均した田いっぱい水を通して満たし、その水が澄むと田の面は大きな水鏡となり、四圍の景色を映して一幅の絵となる。また夕映えの景色が映ると見事で、いつまでも心に残る。揚句の「昼河鹿」は、もうすぐ始まる田植えの忙しさの中で聞く安らぎの声を表し、河鹿と共にある山間の静けさと自然の景色がよく見える佳句行ってみて聞いてみたい思いに駆られる。

ふる里の庭芍薬の一盛り

片岡 包女

(評)芍薬は葉、花ともに牡丹に似て大輪。牡丹は木であるが芍薬は草であり、芍薬の葉は「くすり」で、根を乾燥したものは生薬で鎮痛薬として煎用する。また我が庭にも少し小形の「ヤマシヤクヤク」があり、今年は例年になく花も多く、老眼の保養となり一時を楽しんだ。揚句の「ふる里の庭」は、懐かしいふる里に来てみると、庭には美しい芍薬の花が満開となり、降りそそぐ陽に映え、青葉山から吹く風に揺れ合っただけにも楽しげ、まさに花の青春を謳歌しているかに見える。「一盛り」と詠んだ。作者の観察力と想像力の深さ、表現の巧みさが光る佳吟。

一面のどくだみの白仄明り

竹崎たかひろ

(評)藪草は葉や茎に臭気があるので嫌がられるが、庭の片隅や木陰に群がり咲く。白い花弁に見えるのは花の基につく葉(苞葉)で、花は真ん中に黄色い穂となっている。藪草は(十葉)とも言われ、全草を乾かし生薬の(藪菜)として消炎・利尿剤・その他種々の民間薬として用途が広い。「一面のどくだみ」は、植えも

しないのに庭に侵入し、なかなか出て行かない雑草で地下茎を延ばして繁殖し、あたり一面に生え広がった様子。初夏には、白い苞を清楚な花弁とした白い十字の花となり、清々しさが漂う。「仄明り」の表現により、白色のほんのりとした明るさに藪草のイメージが好転する。

入選

濃紫陽花疎水に綾に彩落し
 ワイシャツの縞青嵐あおあらし
 病葉をこぼし続けて夜の帷
 地の声を大気に染めるアマリリス
 ありたけの芽山椒夕餉散らし鮎
 我が胸に棲む人ひとり堂舞ふ
 白牡丹朝の光のべールつけ

大川 節弥
 東谷 晴男
 植田 紀子
 岡村 嘉夫
 島村かりん
 小野川町子
 國田 貞子

二句抄

体調が頼りの八十路新茶のむ
 朝採りの青とうがらし皿の中
 少子化の極み懺りは只一戸
 一人静時折り銀の光りたる
 未摘花粧う心朱に映えて
 若人と花の宰相町おこし
 廃屋の片隅に咲く杜鵑花かな
 黒き山堂合戦息をのむ
 少年の胸に分け入る青嵐
 若葉風先へ先へと頁繰る

田蔦てい子
 津田 久美
 渡邊ゆかり
 森岡 照月
 刈谷 志津

次題「当季雑詠」

締切/毎月1日

投句先 教育委員会事務局

いの町1700-1 ☎893-1922

人権擁護委員無料相談のご案内

地区	今月の相談日	相談時間	開催場所
伊野	8月16日(水)	13:30~16:30	すこやかセンター伊野1階 小会議室

法務局相談窓口・問い合わせ

(祝休日を除く月~金曜日 受付 8:30~17:00)

高知地方法務局人権擁護課 ☎822-3503

人権擁護委員の連絡先

氏名	住所	電話番号
杉本 寛子	いの町6466-5	☎892-2513
井上 晃	〃 加田599	☎892-1154
藤木 栄子	〃 天王南9丁目12-2	☎891-6684
金子 覺	〃 枝川826-1	☎893-2135
坂本 美加	〃 波川2128-3	☎892-4899
高橋美智子	〃 上八川甲1920	☎867-2426
山本 周児	〃 戸中81-5	☎873-5422